ディアパソン

DIAPASON

イタリア
(1987年〜)

本誌が注目する
世界のスピーカー
ブランド
28

開発者が語る

DIAPASON Designer/CEO
Alessandro Schiavi 氏

ディアパソン社最高級ブックシェルフスピーカー「Astera」は、選び抜かれた無垢のウォルナットを使用し、ダイヤモンドカットの形状に仕上げることにより共振を排除しています。ハンドメイドで生み出すため製作に3カ月を費やし、楽器に近い音作りを基本としています。

ディアパソンの主なラインアップ

ディアパソンのスピーカーは、日本では現在Asteraのみの取り扱いとなっているが、本国では全4種類のシリーズを現在展開している。写真はトールボーイ機の「Neos」

ディアパソンならではの技術

多面体キャビネットのほかに注目しておきたいのが、DDD(ディアパソン・ダイレクト・ドライブ)と呼ばれるネットワーク回路だ。ウーファーのローパスフィルターを排除し、信号を直接入力することで鮮度を保つ。

DDDなどの独自の技術が収められるエンクロージャーは、手作業で製作されている

●試聴モデル
Astera
¥1,036,350/ペア、専用スタンドつき

●型式:リアポート リフレックススピーカー●周波数特性:38Hz〜20kHz●ウーファー:180mm Nextelコーティングペーパーコーン●トゥイーター:29mmシルク・ソフトドーム●能率:88dB/W/m●クロスオーバー:1.6kHz●インピーダンス:8Ω●フィニッシュ:ウォルナット無垢●ターミナル:WBT Nextgenピュアコッパーターミナル●ワイヤリング:ヴァン・デン・ハル無酸素コッパー&シルバー●サイズ:260W×380H×442Dmm(本体のみ)、280W×1146H×442Dmm(スタンド含む)●質量:13kg(本体)、26kg(スタンド)●取り扱い:ヨシノトレーディング(株)

音楽的感性と美的感性が見事に融合したスピーカー群

Text by
井上千岳
Chitake Inoue

●ディアパソンとは?
音質だけでなくデザイン面での完成度にも配慮した仕上がり

スタジオのレコーディング・エンジニアとしても経験豊富なアレッサンドロ・スキアービによって、1987年イタリアに設立された。ダイヤモンド・シェイプと呼ばれる多面体キャビネットが特徴となる同社のスピーカーは、そのいずれもが同じコンセプトを貫いている。

この形状はキャビネットの反射や回折による付帯音を排除するための構造で、加工には伝統あるイタリア家具の技術が駆使されている。1台1台が手作りで製作され、音質だけでなくデザイン面での完成度にも配慮したイタリアらしい仕上がりが人気を呼ぶ。

ユニットは専用設計による特注品を使用し、クロスオーバーのパーツと共に誤差1%以内に収まるよう厳選しているという。本国では代表機Asteraのほか、Reference、Neos、Classicなどのシリーズがラインアップされている。

●代表モデルを聴く
余計な振動や付帯音がなく静寂感に富んだ鳴り方だ

Asteraは現在のディアパソンを代表するモデルで、ユニットにはHexadymマグネットによるソフトドーム・トゥイーターとNextelコーティングを施したペーパーコーン・ウーファーを使用。多面体のキャビネットは、厚みや形状の異なる部材を組み合わせ、内部でも非対称として定在波や反射を打ち消す構造となっている。また専用スタンドにも金属と木材によるダンピングが行われ、本体とのデザイン・マッチングも配慮した仕上げを施した。

余計な振動や付帯音がなく、静寂感に富んだ鳴り方だ。ピアノは重心が下がって低音部の把握が強く、アカペラにも厚手の肉質感が備わっている。高域の鋭さを強調せず、当たりの良さを指向した鳴り方といえる。オーケストラはスケールが大きく、ジャズもベースがずっしりと沈む。腰が落ちて堂々とした再現性である。